

「あなたこそキリストです」

マタイによる福音書 第16章13節～20節

説教 村上修平牧師

今日は、『祈り』とは何かについて考えてみたいと思います。教会に初めて来られた方やクリスチャンではないけれど続けて教会に来ておられる方々が聖書の教える『祈り』を知り、実際に神様に祈ることを始めてもらえたら幸いです。

日本は、八百万の神々を信じる多神教の国であると言われます。クリスマスにはケーキを食べてクリスマスのお祝いをし、正月にはお餅を食べて神社にお参りをするのは、日本では珍しいことではありません。私は高校受験の時に、親に連れられて、その地方で有名な神社に行き、お祓いをしてもらったことがあります。その時にいただいた絵馬には、「絶対合格！」と書いて、祈りました。その結果かどうか分かりませんが、第一志望の高校に合格しました。

この私の例にあるように、日本語で『祈る』という言葉を使う時は、自分に都合のよいこと、受験合格・家内安全・商売繁盛などのご利益を神仏に願うという意味で使われるのが一般的であると思います。しかし、聖書が教える『祈り』はこれとは少し違います。もちろん、神様に自分の願いを求めることもありますが、祈りは基本的に神様と私達の対話なのです。そして、対話に必要なのは相手の話をよく聞くことです。つまり、神様が今私達に語りかける言葉をよく聞くことが大事なのです。

今日お読みした聖書には、主イエス・キリストとその弟子シモン・ペトロの対話が記されています。主イエスがフィリポ・カイサリアに行った時に弟子たちに、「人々は、人の子のことを何者だと言っているか」（マタイによる福音書16章13節）とお尋ねになりました。ガリラヤ湖の北にあるフィリポ・カイサリア地方では、多くの神々が祭られていました。ローマ皇帝カイザルを神として祭った神殿もありました。そこでは、主イエスもたくさんの神々の一人のようにうわさされていたのでしょうか？ 弟子たちは主イエスの問いに、『洗礼者ヨハネだ』と言う人も、『エリヤだ』と言う人もいます。…』と答えました。ユダヤ人達の間で、主イエスは偉大な預言者たちの生まれ変わりではないかと言われていたからです。そこで、主イエスは、「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか」（15節）とお尋ねになりました。

『人がどううわさしているかはもうよい。あなたがわたしのことをどう思っているか知りたい』と言われたのです。主イエスは私達に、『あなたは私を信じ、私を頼りにしているか』と尋ねて、私達の答えを待っておられるのです。シモン・ペトロは主イエスの言葉とその言葉に込められた思いをよく聞きました。その時に、父なる神様からの啓示が与えられ、主イエスが「メシア、生ける神の子」（16節）であることが分かったのです。主イエスがただの人ではなくて生きておられる神様で、私達を罪から救い、天国に迎え入れて下さる救い主であることは、神様の啓示によらなければ誰にも理解できません。

私の母が病気になった時に、私は神様に母の病気が癒されるよう熱心に祈りましたが、願いは聞かれず、母は天に召されました。本当に悲しかったです。なぜ神様は私の祈りを聞いて下さらなかったのか理解に苦しみました。しかし、聖書を読んでいる時に啓示が与えられました。主イエスが十字架の上で苦しみ、墓に葬られ、陰府にまで降られたのは、苦しみの中で死に向かう母を独りにせず、大きな愛で抱擁して下さるためだと理解でき、涙がこぼれました。主イエスは私達にとって本当に救い主です。

主イエスはシモンの信仰告白を喜ばれ、彼にペテロ（岩の意味）というあだ名をつけました。「あなたはペテロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建て、陰府の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつなぐられる。あなたが地上で解くことは、天上でも解かれる。」（18～19節）信頼する人でなければ、「鍵」を預けることはできません。主イエスはペトロを信頼して、天国の鍵を授け、天国の門から人々が入り出すことを、禁じたり（つなぐ）、許したり（解く）する鍵の管理をお任せになりました。教会は天国の門です。教会は誰でも自由に出入りできますが、主イエスは一人一人に、「あなたは私を信じるか」と尋ねられます。どうぞ、主イエスの言葉をよく聞いて対話を始めて下さい。主イエスを救い主と告白する人は天国の鍵を授けられ、周りの人々に主イエスの救いを証するという尊い使命が与えられるのです。

（記 村上修平）